

# 九州・山口県の火山活動 (令和7年5月1日～6月24日)

令和7年6月24日  
福岡管区気象台  
地域火山監視・警報センター

# 今回のポイント

- ・口永良部島 6/11 噴火警戒レベル3に引上げ
- ・霧島山(新燃岳) 5/27 噴火警戒レベル2に引下げ
- 6/22 7年ぶりに噴火発生
- 6/23 噴火警戒レベル3に引上げ

## 口永良部島

噴火警戒レベル3(入山規制)

新岳火口及び古岳火口から概ね2kmの範囲では、大きな噴石及び火砕流に警戒  
向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒

- ・4月上旬から主に古岳火口付近の浅いところを震源とする火山性地震が多い状態で経過。
- ・GNSS連続観測では、古岳付近の山体が膨張した状態が維持。

## 霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル3(入山規制)

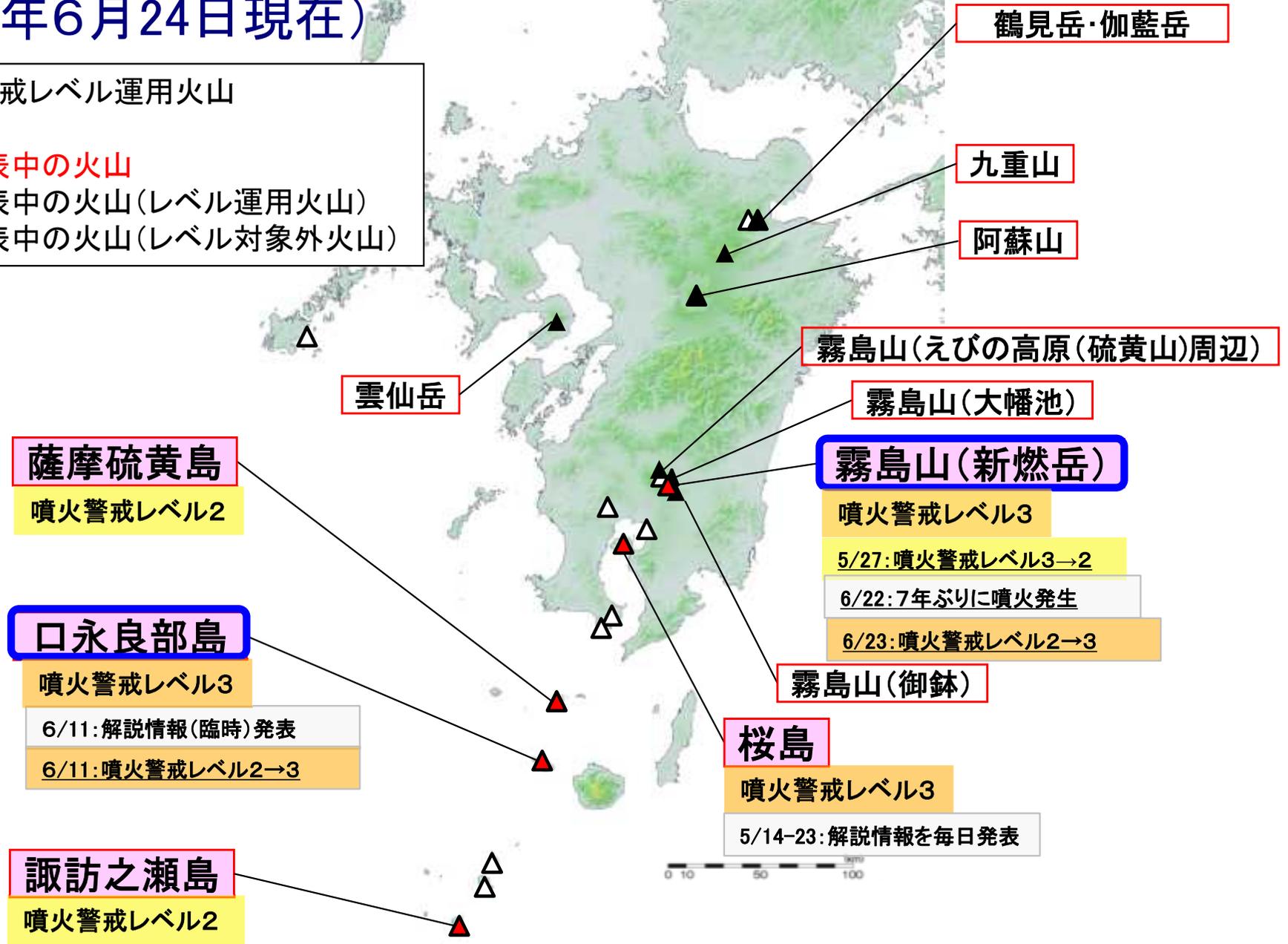
新燃岳火口から概ね3kmの範囲で警戒(大きな噴石:火口から概ね3kmまで、火砕流:  
火口から概ね2kmまで)。

- ・火山性地震減少、及び新燃岳近傍の傾斜計に特段の変化がみられず、5/27にレベル2に引下げ。
- ・6/23に火山ガス(二酸化硫黄)の放出量が急増していることを確認。GNSS連続観測では、霧島山を挟む一部の基線で、2025年3月頃から霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる。これらにより、6/23にレベル3に引上げ。

# 噴火警報及び噴火予報の発表状況 (令和7年6月24日現在)

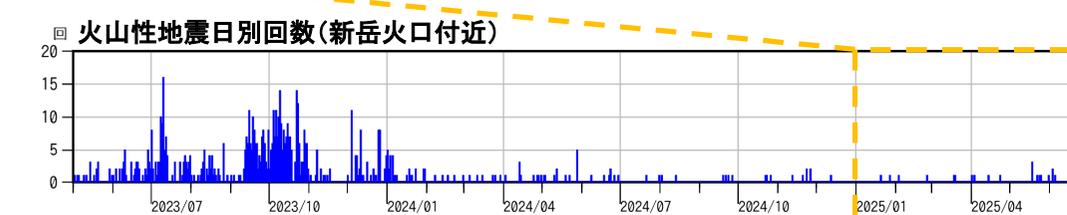
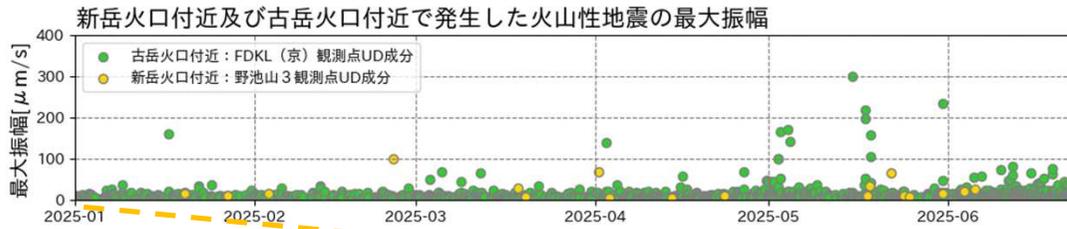
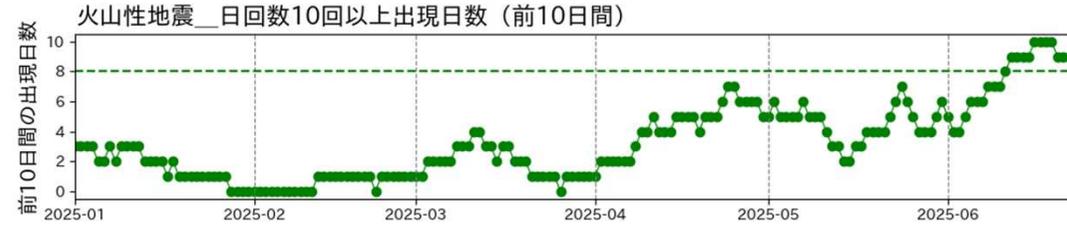
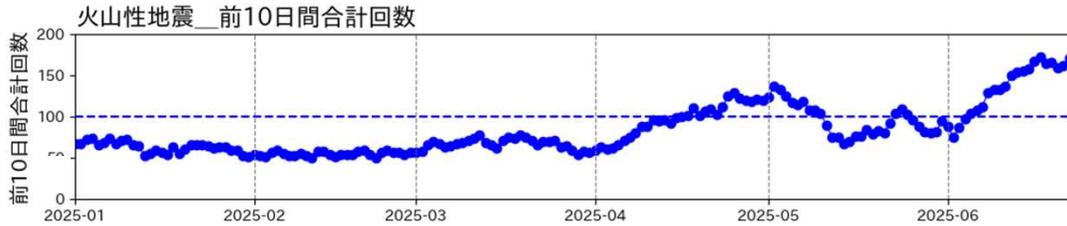
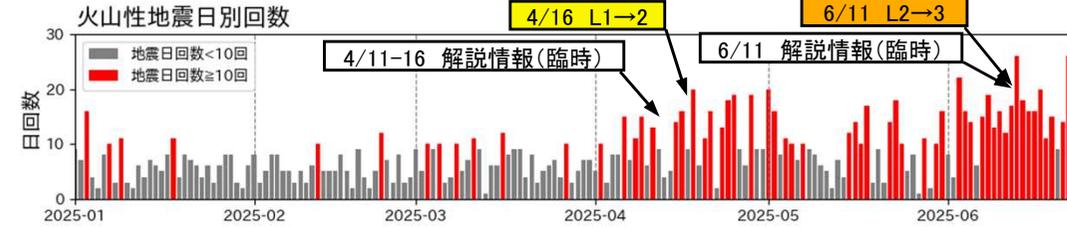
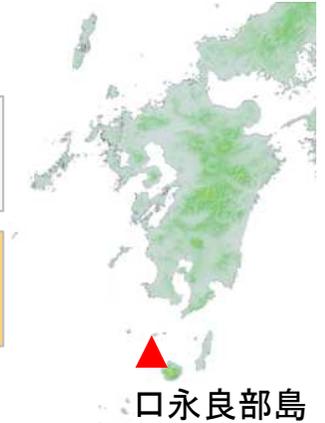
火山名 は噴火警戒レベル運用火山

▲ 噴火警報発表中の火山  
▲ 噴火予報発表中の火山(レベル運用火山)  
△ 噴火予報発表中の火山(レベル対象外火山)



# 口永良部島

## 噴火警戒レベル3(入山規制)



6/11 :火山の状況に関する  
解説情報(臨時)発表

6/11 :噴火警戒レベル2→3  
(入山規制)

- 4月上旬から山体の浅いところで地震活動が活発化し、火山性地震が多い状態。火山性地震は主に古岳火口付近で発生。
- GNSS連続観測では、2023年6月下旬頃から10月頃にかけて古岳付近の膨張を示す変動が観測されており、現在も膨張した状態が維持(次ページ)。

### 火山性地震の発生状況

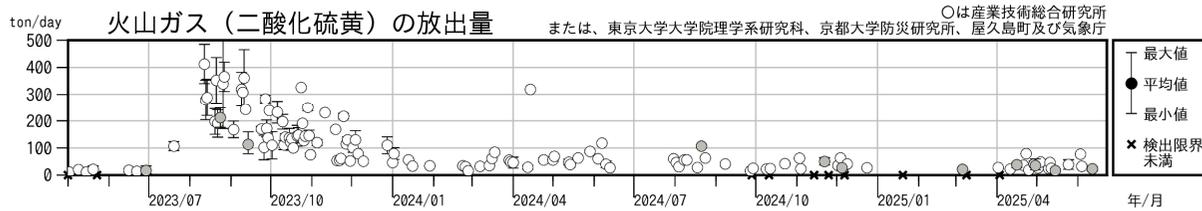
- 4月上旬から山体の浅いところで地震活動が活発化。
- 古岳火口付近を震源とする火山性地震が多い状態となり、5月には振幅のやや大きな火山性地震が時折発生。
- 新岳火口付近においても地震活動が継続。

### ←火山性地震の発生状況

(2023年5月1日~2025年6月22日)

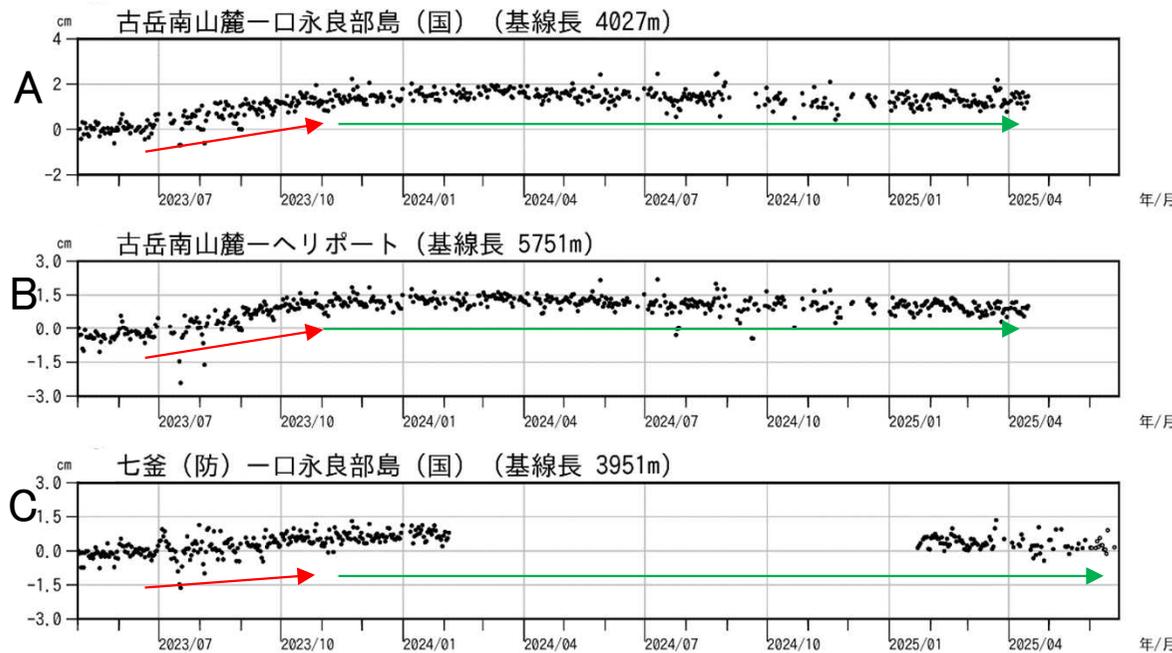
※1段目~4段目は2025年1月1日~2025年6月22日

# 口永良部島



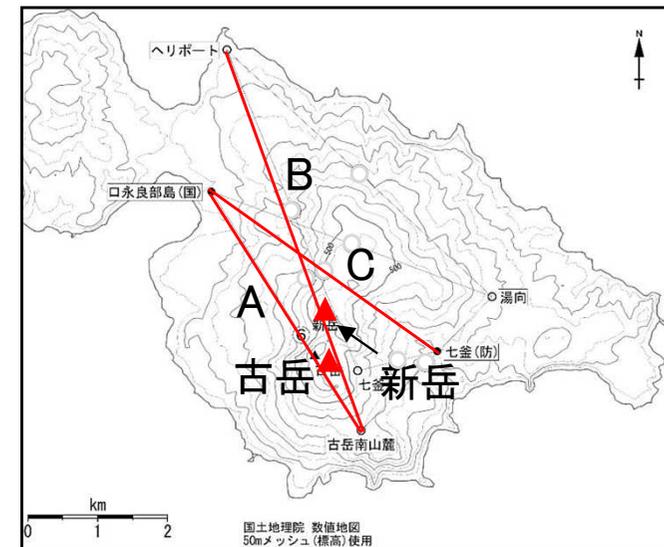
- 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり20トン～80トンと少ない状態。2024年8月以降は概ね少ない状態で経過。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量（2023年5月1日～2025年6月22日）



- GNSS連続観測では、2023年6月下旬頃から10月頃にかけて古岳付近の膨張を示す変動が観測されており(赤矢印)、現在も膨張した状態が維持(緑矢印)。

GNSS連続観測による基線長変化（2023年5月1日～2025年6月22日）



GNSS連続観測点と基線  
GNSS基線長図(左下図)の基線を赤線で示す。



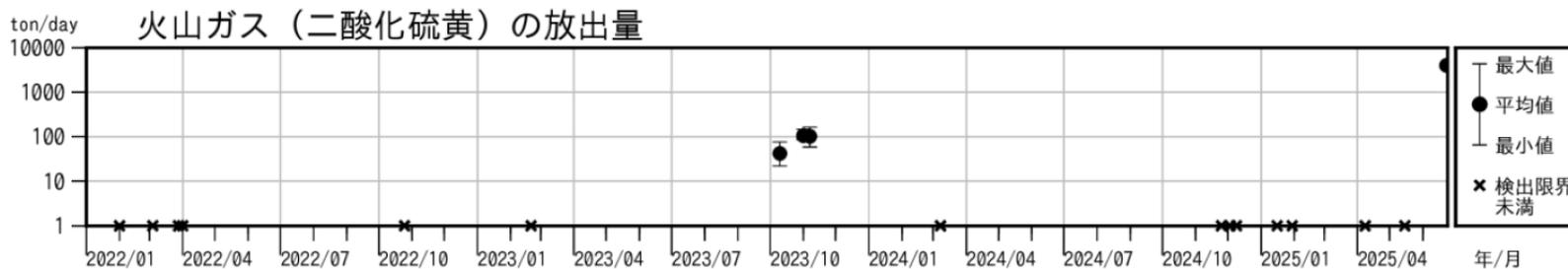
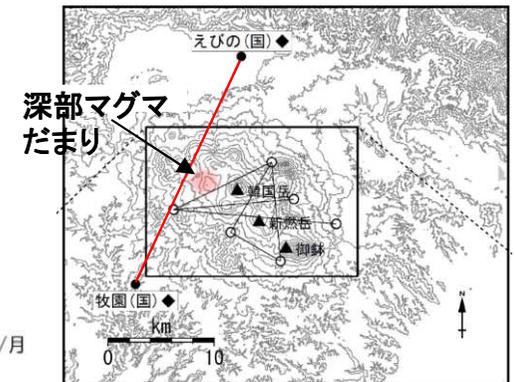
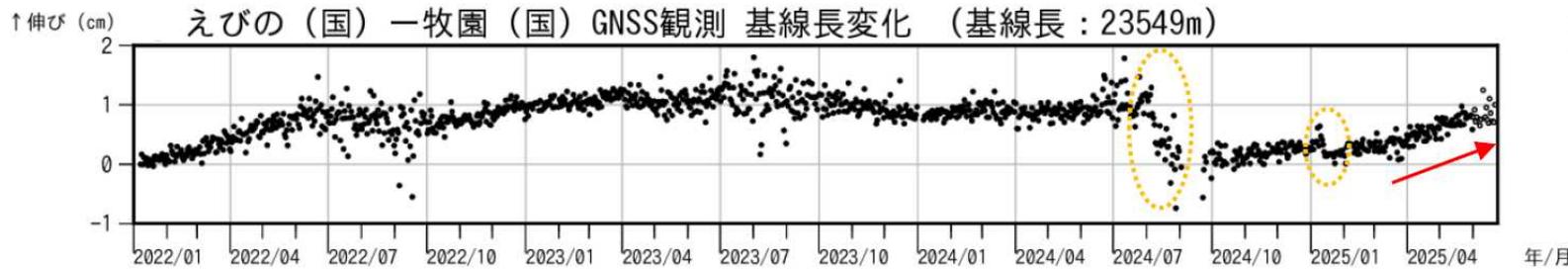
# 霧島山(新燃岳) 噴火警戒レベル3(入山規制)

5/27 : 噴火警戒レベル3→2(火口周辺規制)

6/22 : 噴火発生(2018年6月27日以来)

6/23 : 噴火警戒レベル2→3(入山規制)

- GNSS連続観測では、霧島山を挟む一部の基線で、2025年3月頃から、霧島山深部の膨張を示すと考えられる基線のわずかな伸びが認められる(赤矢印)。
- 6月23日に実施した現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の1日あたりの放出量は4000トン(前回5月15日には検出されず)を観測し、急増していることを確認。



GNSS連続観測(左図)の基線を赤線で示す。

図 霧島山(新燃岳) GNSS連続観測による地殻変動及び火山ガス(二酸化硫黄)放出量の状況

※ 橙色破線内の変化は、日向灘の地震(2024年8月8日、2025年1月13日)による変動。

# 霧島山(新燃岳) 6月22日の噴火



図4 霧島山(新燃岳) 噴火に伴う噴煙の状況 (6月22日16時39分、八久保監視カメラ)

噴煙(黄色破線内)は火口縁上500m以上に上がり、東へ流れました。

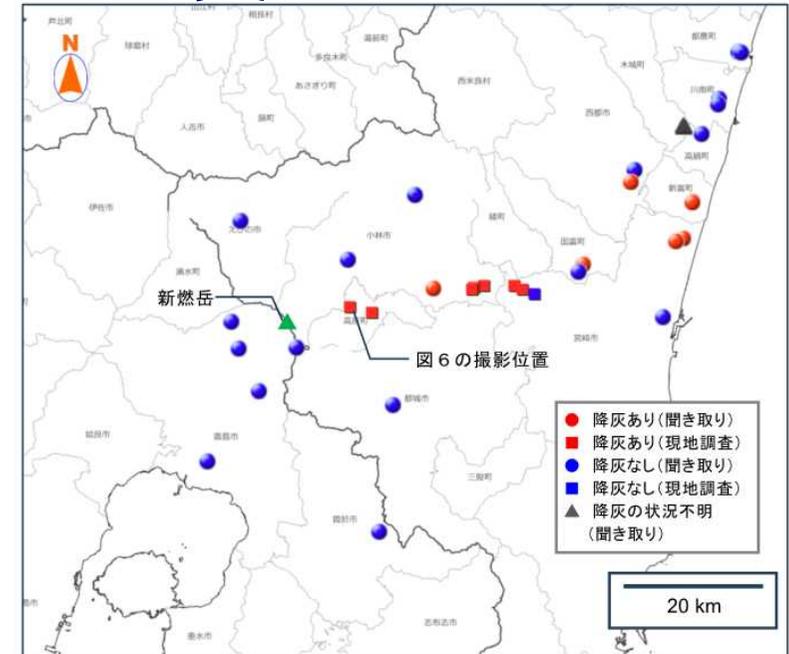


図5 霧島山(新燃岳) 降灰分布図(2025年6月22日18時時点)及び図6の観測位置

6月22日に実施した現地調査及び聞き取りによる降灰調査では、宮崎県高原町、小林市、宮崎市、国富町、西都市、新富町の新燃岳の北東側の広い範囲で降灰を確認しました。



図6 霧島山(新燃岳) 宮崎県高原町広原の降灰状況(6月22日18時頃)

現地調査では、宮崎県高原町広原において、道路の白線が見えなくなるほどの多量の降灰を確認しました。降灰量は1平方メートルあたり95gでした(22日18時49分時点)。小さな噴石は確認できませんでした。

# 霧島山(新燃岳) 6月22日の傾斜変動

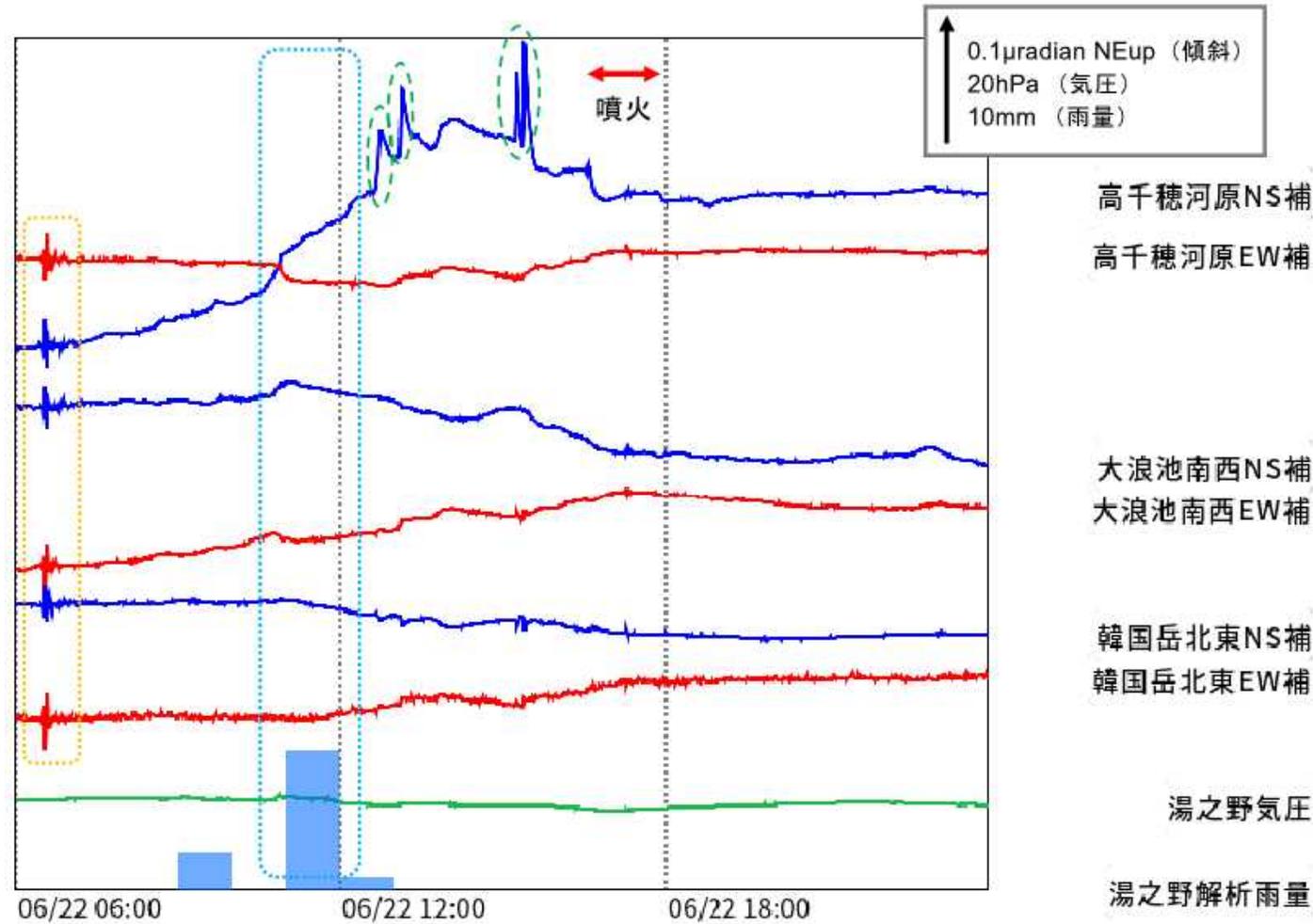


図7 霧島山(新燃岳) 傾斜計による地殻変動の状況(分値)  
(2025年6月22日06時00分～6月22日23時59分)

新燃岳近傍の傾斜計では、22日12時頃から15時頃にかけて、火山性微動の発生に伴い、山体の膨張と収縮を示す地殻変動が時々認められました(緑色破線内)。その後は、特段の変化は認められません。

図上部の赤色の矢印は、気象台が噴火を観測した期間を示します。

橙色破線内の変化は、遠地地震による変動です。

青色破線内の変化は、降水の影響を受けている可能性があります。

各観測点の成分名に付記された「補」の文字は、そのデータが潮汐補正済みであることを示しています。

# 霧島山(新燃岳) 火山性地震及び火山性微動

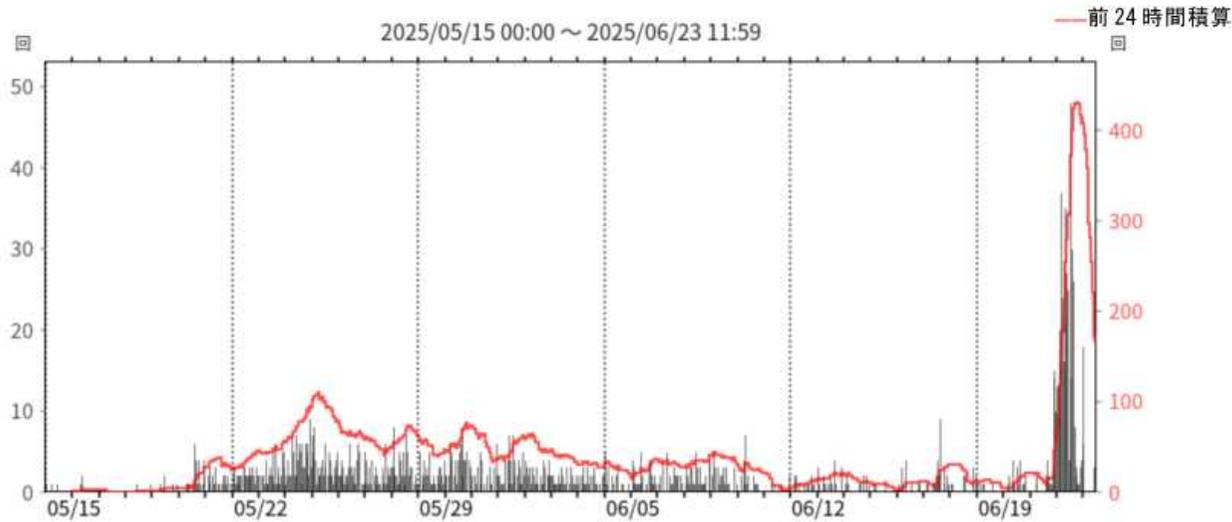


図8 霧島山(新燃岳) 火山性地震の時間別回数及び前24時間積算回数(赤線)  
(5月15日～6月23日11時59分まで)

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は増減を繰り返しており、6月21日21時頃から地震回数が増加し、前10日間の地震回数は非常に多い状態で経過しています。

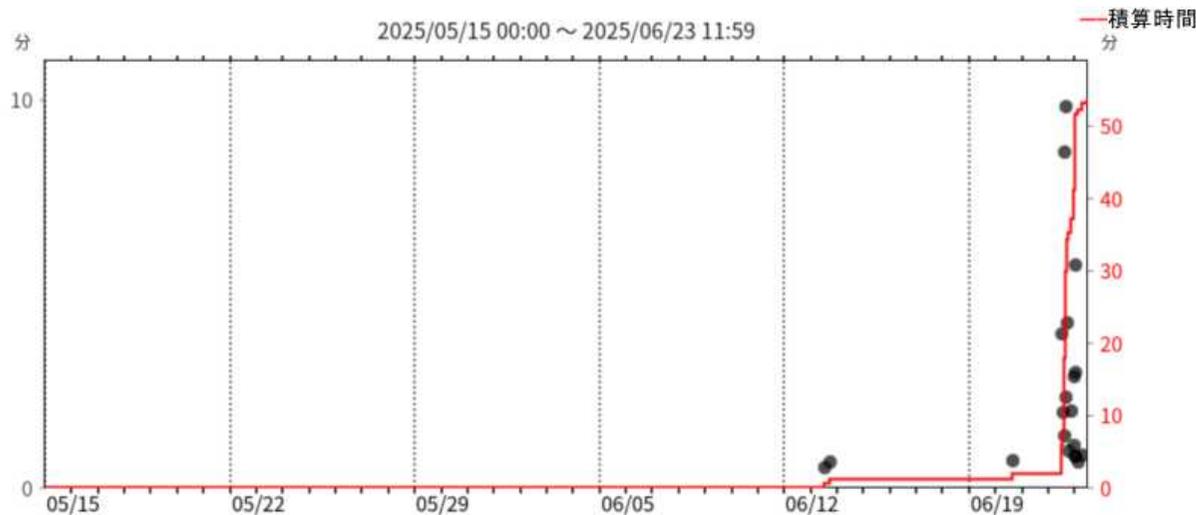


図9 霧島山(新燃岳) 火山性微動の継続時間(黒丸)及び積算時間(赤線)  
(5月15日～6月23日11時59分まで)

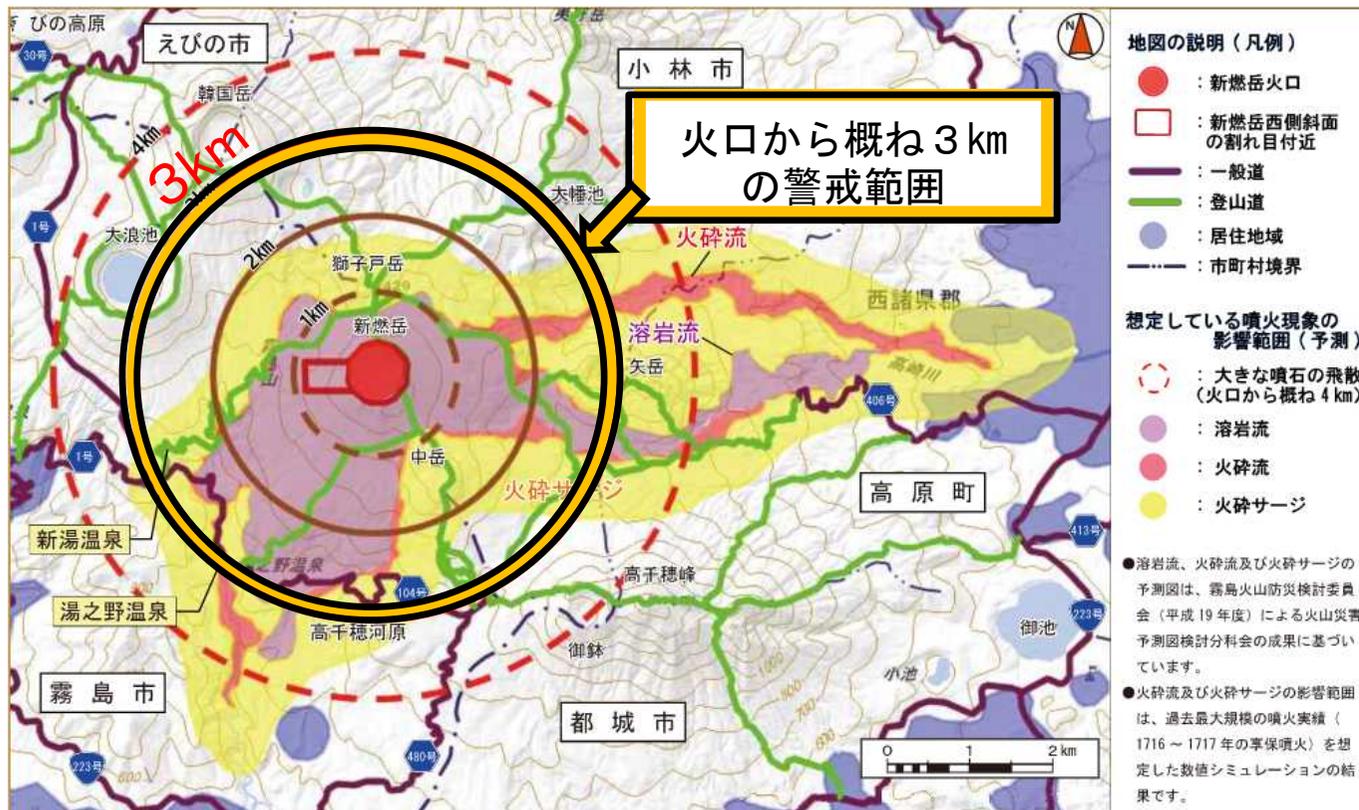
6月22日頃から火山性微動が増加しています。

# 霧島山(新燃岳) 防災上の警戒事項等

## 噴火警戒レベル3(入山規制)

### 警戒事項等

弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね3 kmまで、火砕流が概ね2 kmまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね3 kmの範囲では警戒してください。



- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

# 以下、参考資料 (火山の活動状況、用語集など)

# 霧島山(新燃岳) 活動状況1

## 噴火警戒レベル3(入山規制)

＜2025年5月から6月22日までの状況＞

(6月の回数等は速報値)

### 噴煙等の状況

- 6月22日16時37分から17時55分にかけて監視カメラで噴火を観測(2018年6月27日以来)。噴煙は最高で火口縁上500m以上に上がり、東へ流れた。
- 新燃岳火口では、上記噴火の他は、噴煙の高さは火口縁上100m以下で経過。
- 新燃岳火口西側斜面の割れ目では、噴煙の高さは100m以下で経過。

### 火山ガス(二酸化硫黄)の状況

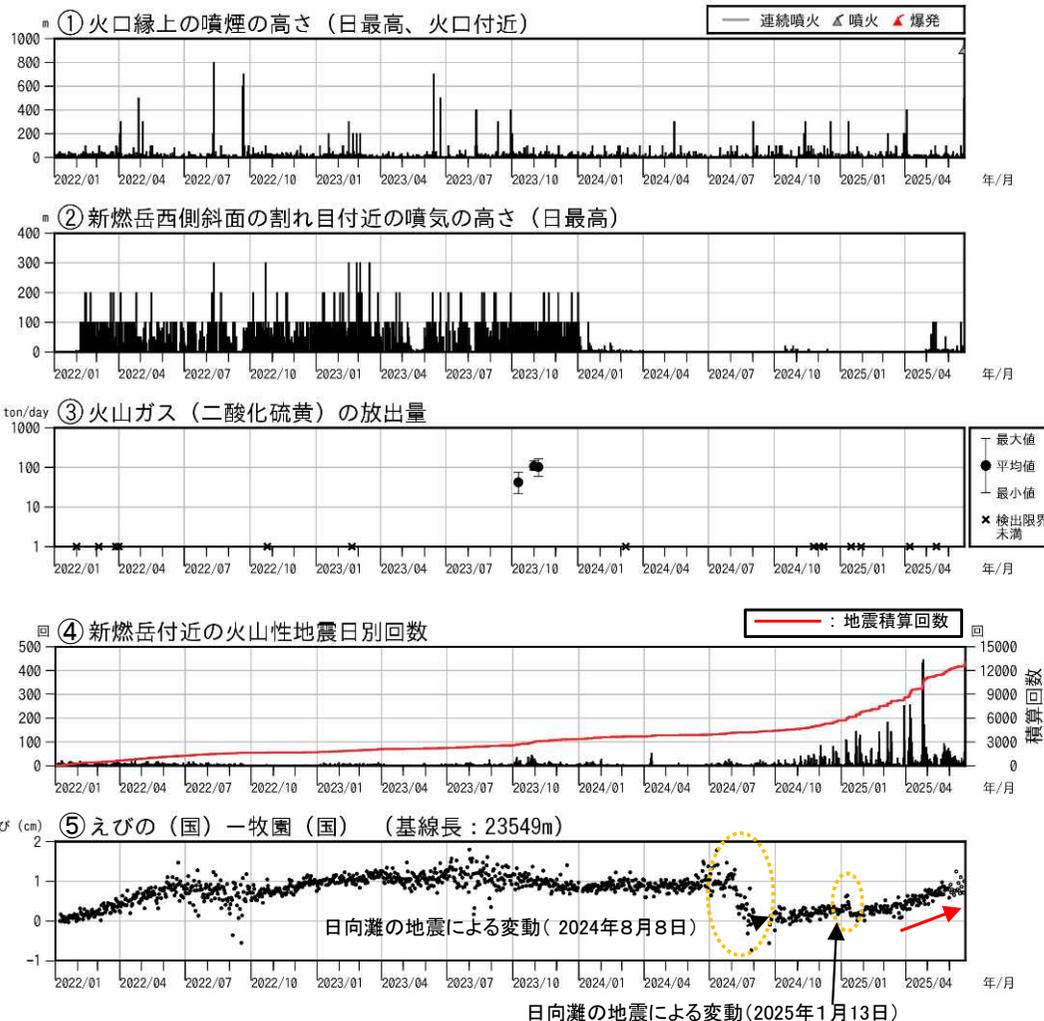
- 5月15日に実施した現地調査では検出されなかった。

### 火山性地震の状況

- 火口直下を震源とする火山性地震は、2024年10月下旬頃から増減を繰り返している。5月の月回数は1,021回で、前月(4月:2,442回)と比較して減少。

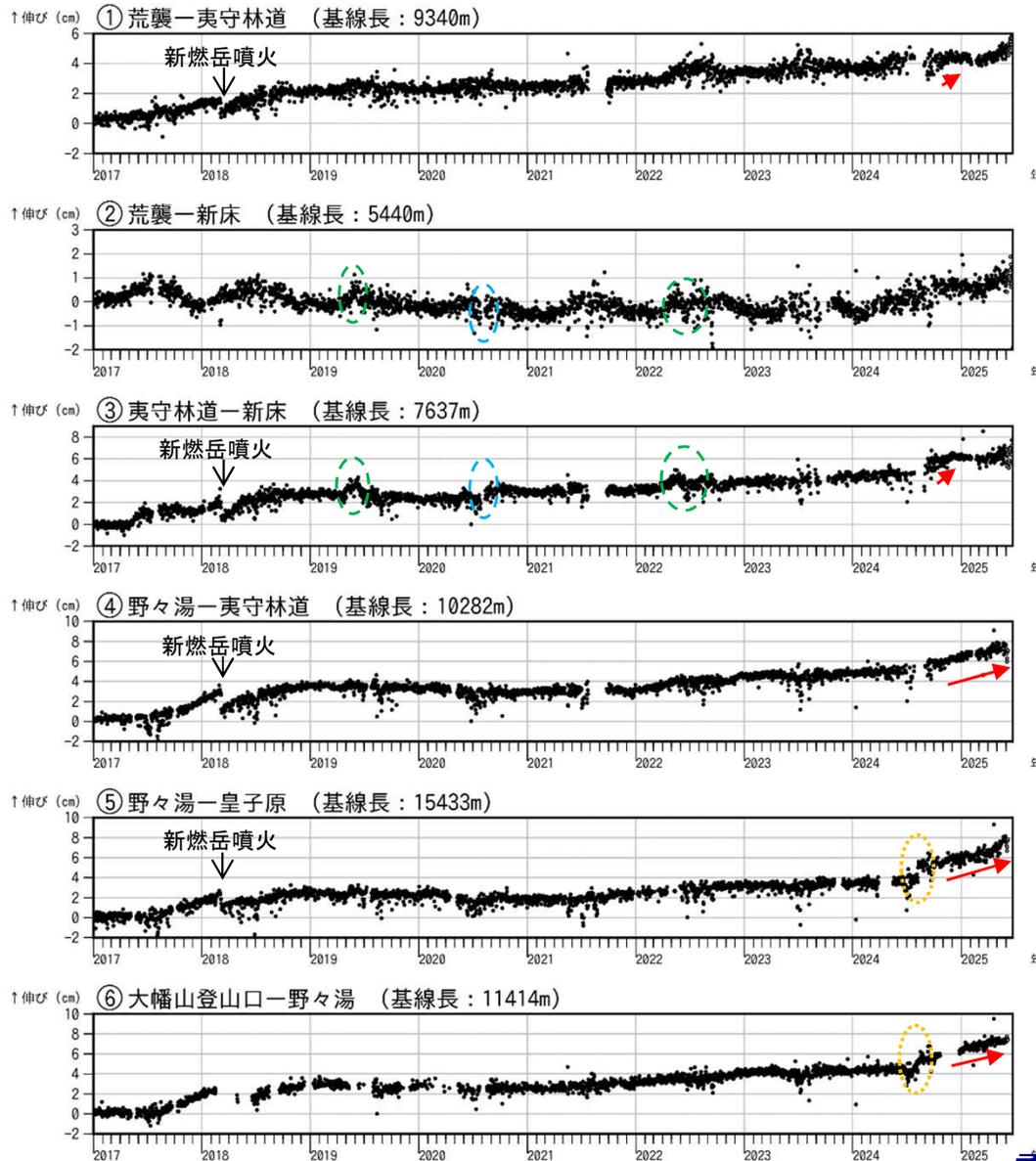
### GNSS連続観測(広域)の状況

- 3月頃から、霧島山を挟む一部の基線で霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる(赤矢印)。



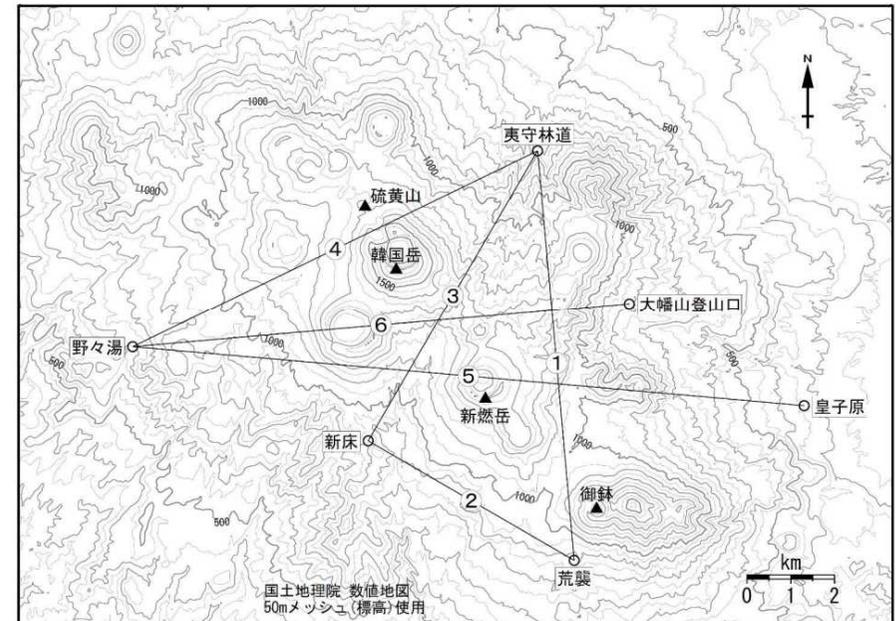
霧島山(新燃岳) 火山活動経過図  
(2022年1月～2025年6月22日)

# 霧島山(新燃岳) 活動状況2



＜2025年5月から6月22日までの状況＞  
GNSS連続観測(狭域)の状況 (6月のデータは速報値)

- 2024年11月頃から霧島山を挟む一部の基線で新燃岳付近の地下の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる(赤矢印)。



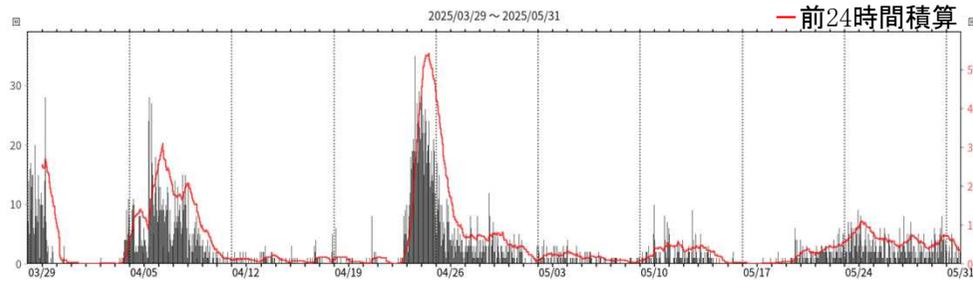
小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(国)：国土地理院

## 霧島山(新燃岳) GNSS連続観測による基線長変化

(2017年1月～2025年6月22日)

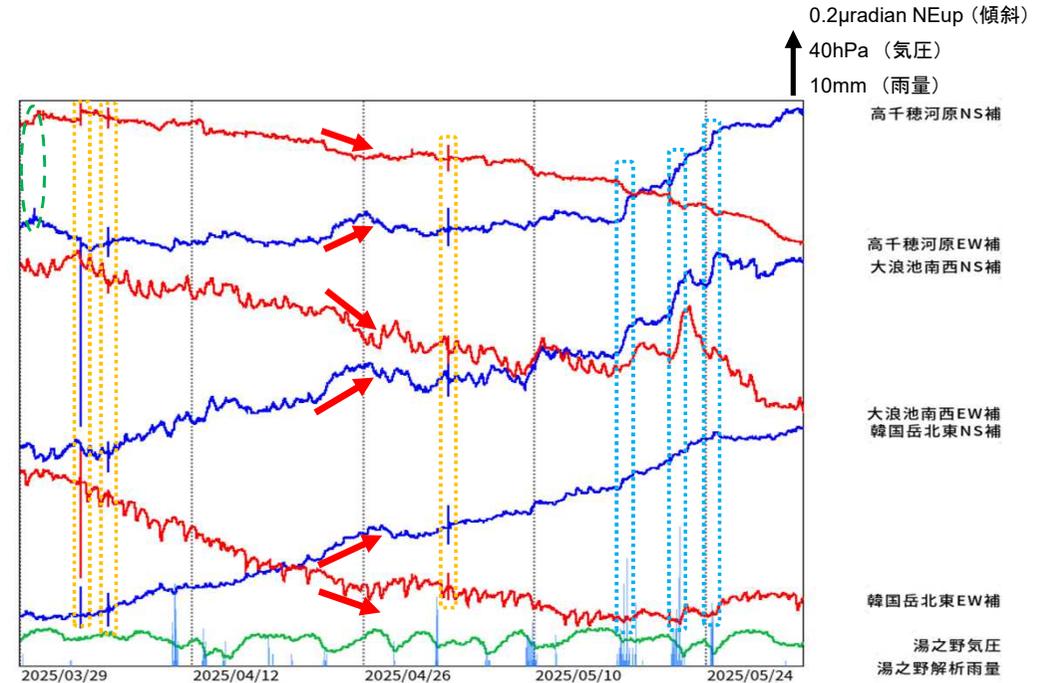
- 基線の空白部分は欠測を示す。
- 緑色の破線内の変化は、新床観測点周囲の環境の変化に伴う影響と考えられる。
- 水色の破線内の変化は、新床観測点のセンサー台交換による局所的な変動による影響と考えられる。
- 橙色の破線内の変化は、2024年8月8日の日向灘の地震による変動。

# 霧島山(新燃岳) 活動状況3(5月までの状況)



火山性地震の時間別回数及び前24時間積算回数(赤線)  
(2025年3月29日～5月31日)

新燃岳の火口直下を震源とする火山性地震は増減を繰り返しています。4月25日には前24時間の地震回数が500回を超えました。その後も地震回数は依然として概ね多い状態で経過しているものの、顕著な増加は認められません。



傾斜計による地殻変動の状況(分値)(3月29日～5月31日)

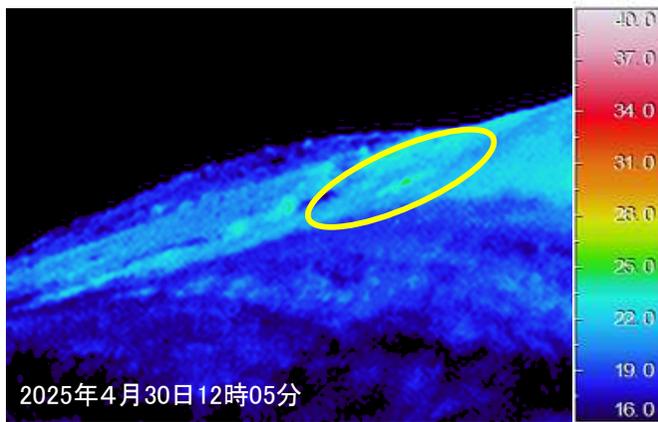
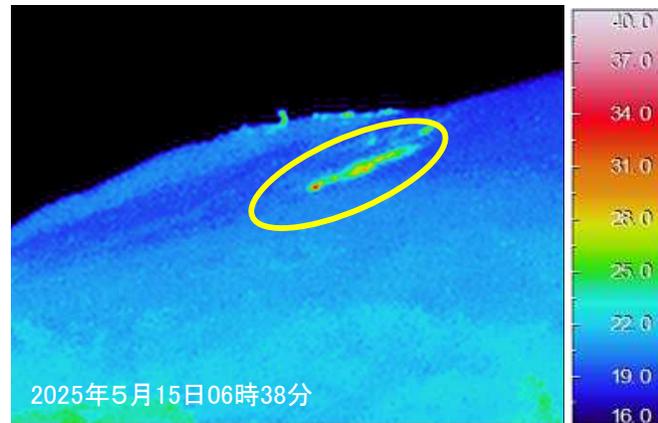
新燃岳周辺の傾斜計では、特段の変化は認められませんでした。

緑色破線内は3月30日にみられた山体の膨張を示す地殻変動です。  
赤色矢印の変化は、4月22日から26日(期間外)に観測された北西上りの傾斜変動です。  
橙色破線内の変化は、遠地地震による変動です。  
青色破線内の変化は、降水の影響によると考えられます。  
各観測点の成分名に付記された「補」の文字は、そのデータが潮汐補正済みであることを示しています。

# 霧島山(新燃岳) 活動状況4

5月7日に韓国岳山頂付近から実施した現地調査では、新燃岳西側斜面の割れ目付近で噴気活動が再開していることを確認し、噴気の噴出場所付近では地熱域を確認した。新燃岳火口の噴煙や地熱域の状況に特段の変化は認められなかった。

5月15日に新湯温泉付近から実施した現地調査では、新燃岳西側斜面の割れ目付近で白色の噴気と地熱域を確認したが、特段の変化は認められなかった。



新燃岳西側斜面の割れ目付近の状況(新湯温泉付近からの観測)



観測位置及び撮影方向

# 霧島山(新燃岳)

## 噴火警戒レベル判定基準(レベル3)

【火口から概ね2 kmを超え4 kmまで影響を及ぼす噴火の可能性】

・霧島山を挟むGNSSの基線の伸びが認められている時に下記のいずれかの現象が認められた場合

➢レベル2の噴火の火山灰に新鮮なマグマ性物質が数パーセント以上含まれている場合や噴煙の温度が顕著に高くなった場合

➢1日あたりの二酸化硫黄の放出量が急増した場合

➢新燃岳付近で低周波地震の多発(10回以上/1時間又は30回以上/24時間)

➢急速な傾斜変化(噴火中での変化:高千穂河原等の傾斜計で $1 \mu\text{rad}$ 以上)が継続中である場合、又は周辺の傾斜計で急速にマグマだまりの収縮を示す変化が生じている場合

➢短期間(数時間から数日)に傾斜変化とともに火山性地震の増加(100回以上/24時間)

【火口から概ね2 kmを超え4 kmまで影響を及ぼす噴火の発生】

・連続的噴火が発生し、噴煙の高さが火口縁上3,000m以上となる場合

・噴煙の中に軽石が多量に含まれている場合

・大きな噴石が飛散(火口から概ね2 kmから4 km)

・噴火により、空振計で90Pa以上を観測

・火砕流が2 km程度流下した場合、又は流下距離が次第に大きくなり2 kmを超える可能性があるとして判断した場合

当該レベルの現象が概ね1ヶ月見られなくなるなど、観測データに活動低下が認められた場合には、火山活動を評価しレベル2への引き下げを判断する。

なお、警戒が必要な範囲を新燃岳火口から概ね4 km以内としている際は、観測データに活動低下が認められ、大きな噴石が3 kmを超えて飛散する可能性が低くなった場合には、警戒が必要な範囲を新燃岳火口から概ね3 km以内に縮小する。

レベル3における警戒が必要な範囲は新燃岳火口から概ね3 km以内を原則とするが、火山活動の状況によっては概ね4 km以内まで拡大することがある。

# 桜島 活動状況1

## 噴火警戒レベル3(入山規制)

5/14~23 : 火山の状況に関する解説情報発表

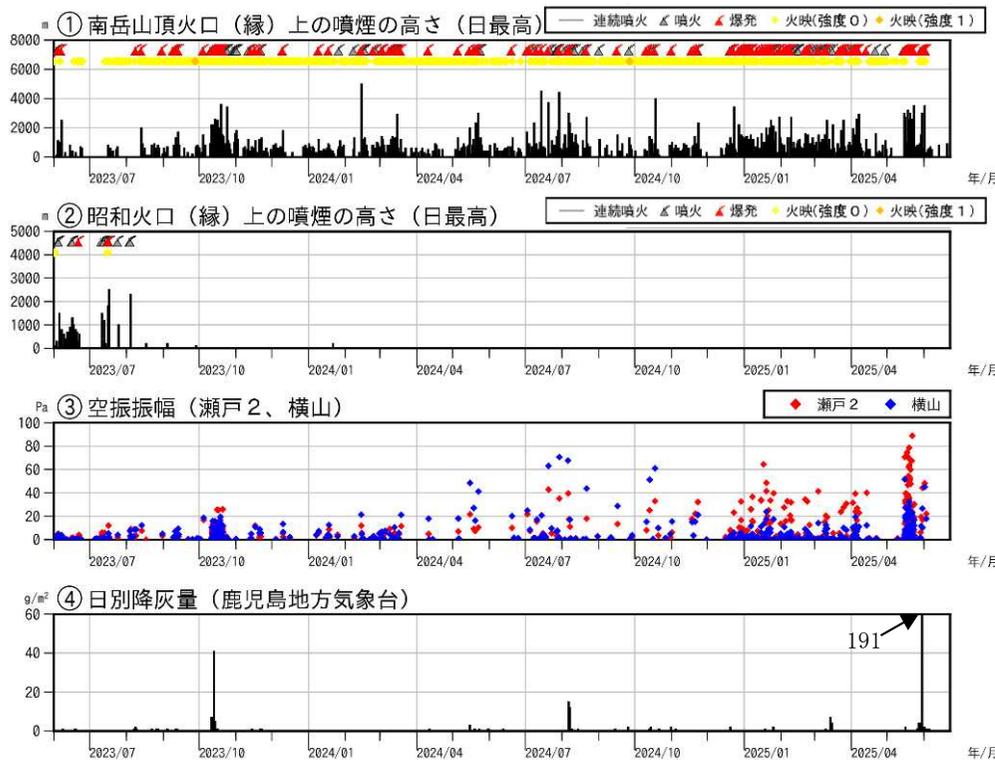
<2025年5月から6月22日までの状況>  
(6月の回数等は速報値)

### 噴煙等の状況

- ・南岳山頂火口では、噴火が148回(5月:146回、6月:2回)発生。このうち爆発は81回(5月:79回、6月:2回)。噴煙は最高で火口縁上3,500m以上まで上昇。夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・昭和火口では、噴火及び爆発の発生はなし。火映の観測はなし。

### 降灰の状況

- ・鹿児島地方気象台(東郡元)では、月合計204g/m<sup>2</sup>(降灰日数9日)の降灰を観測。

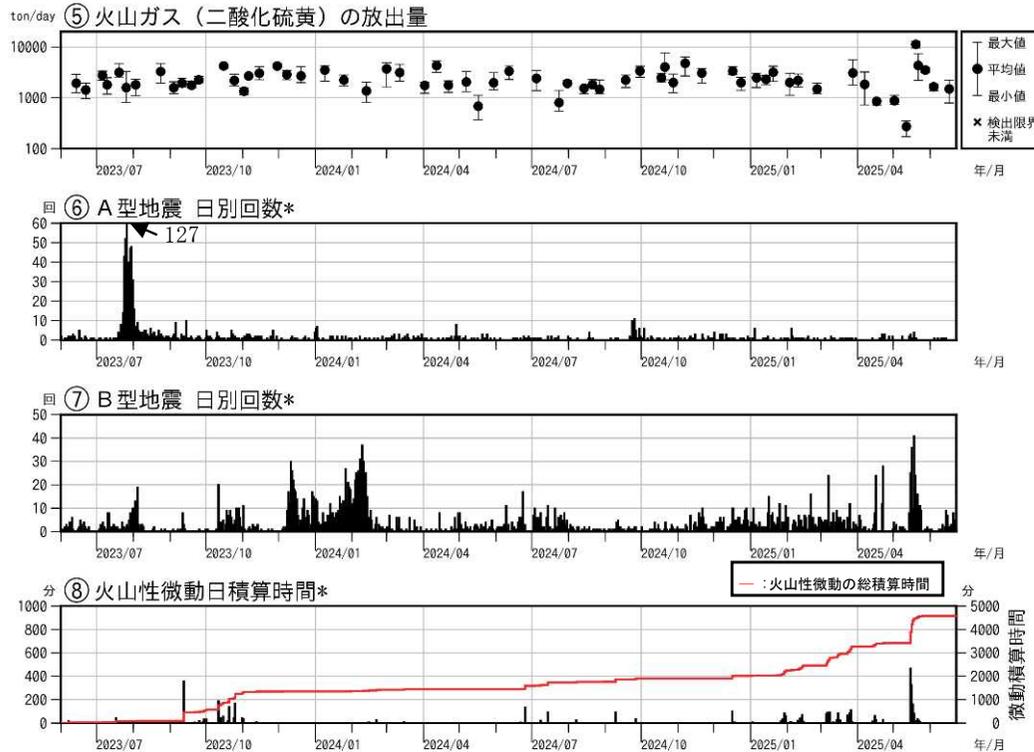


## 桜島 火山活動経過図1

(2023年6月~2025年6月22日)

# 桜島 活動状況2

＜2025年5月から6月22日までの状況＞  
(6月の回数等は速報値)



桜島 火山活動経過図2  
(2023年6月～2025年6月22日)

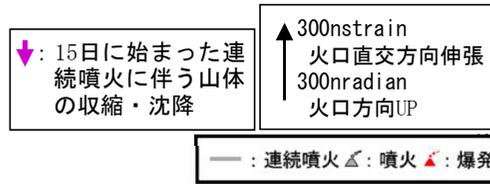
## 火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- ・噴火活動が活発化した5月15日以降とそれ以前で大きく変化。
- ・活発化する前の5月2日と5月12日に行った現地調査では、1日あたり300～900トンとやや少ない状態であり、前月(4月:900～1,800トン)と比較して減少。
- ・一方、活発化後の5月20日、22日、28日の観測では、1日あたりの放出量は3,500～11,200トンと非常に多くなった。
- ・2022年7月以降、概ね多い状態で経過。

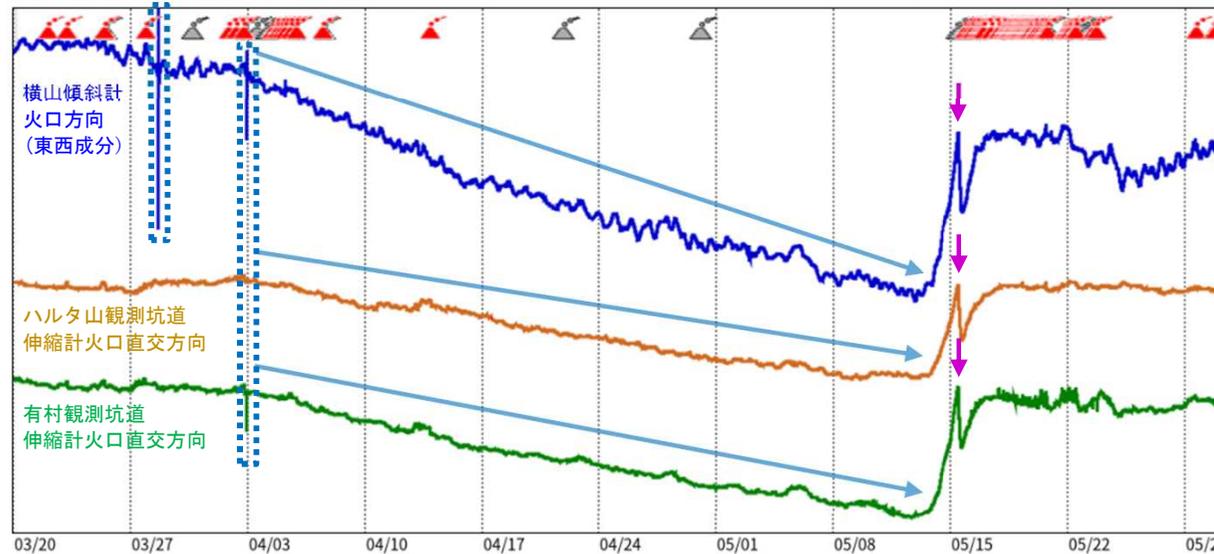
## 火山性地震等の状況

- ・火山性地震は15日からの噴火活動の活発化に伴い、一時的にやや多い状態となったものの、期間を通して概ね少ない状態で経過。地震回数は396回(5月:334回、6月:62回)。
- ・火山性微動は主に噴火に伴い発生。5月の月合計継続時間は19時間14分で、前月(4月:2時間35分)と比較して増加。

# 桜島 活動状況3



桜島 傾斜計・伸縮計 (分値)



## 地殻変動の状況

- ・桜島島内の傾斜計及び伸縮計では、4月上旬頃から山体の収縮(沈降)に伴う変化が認められたが(青矢印)、12日夜から膨張(隆起)に転じた。この膨張(隆起)は、15日に始まった連続噴火に伴い一部解消したものの(紫矢印)、その後も膨張(隆起)した状態で経過。
- ・18日から22日にかけては、噴火や爆発に伴うわずかな山体の膨張(隆起)と収縮(沈降)が数十分～数時間間隔で繰り返しみられた。

## 桜島 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況 (2025年3月20日～5月31日)

- ※青破線内で示す変化は遠地地震などの影響によると考えられる。
- ※横山観測点は山頂火口域のほぼ西に位置していることから、傾斜計東西成分の東側が上がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示。
- ※各観測点のデータには、潮汐補正を行っている。
- ※図の作成には、大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学のハルタ山観測坑道の観測データを使用している。

# 桜島 防災上の警戒事項等

## 噴火警戒レベル3(入山規制)

### 警戒事項

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

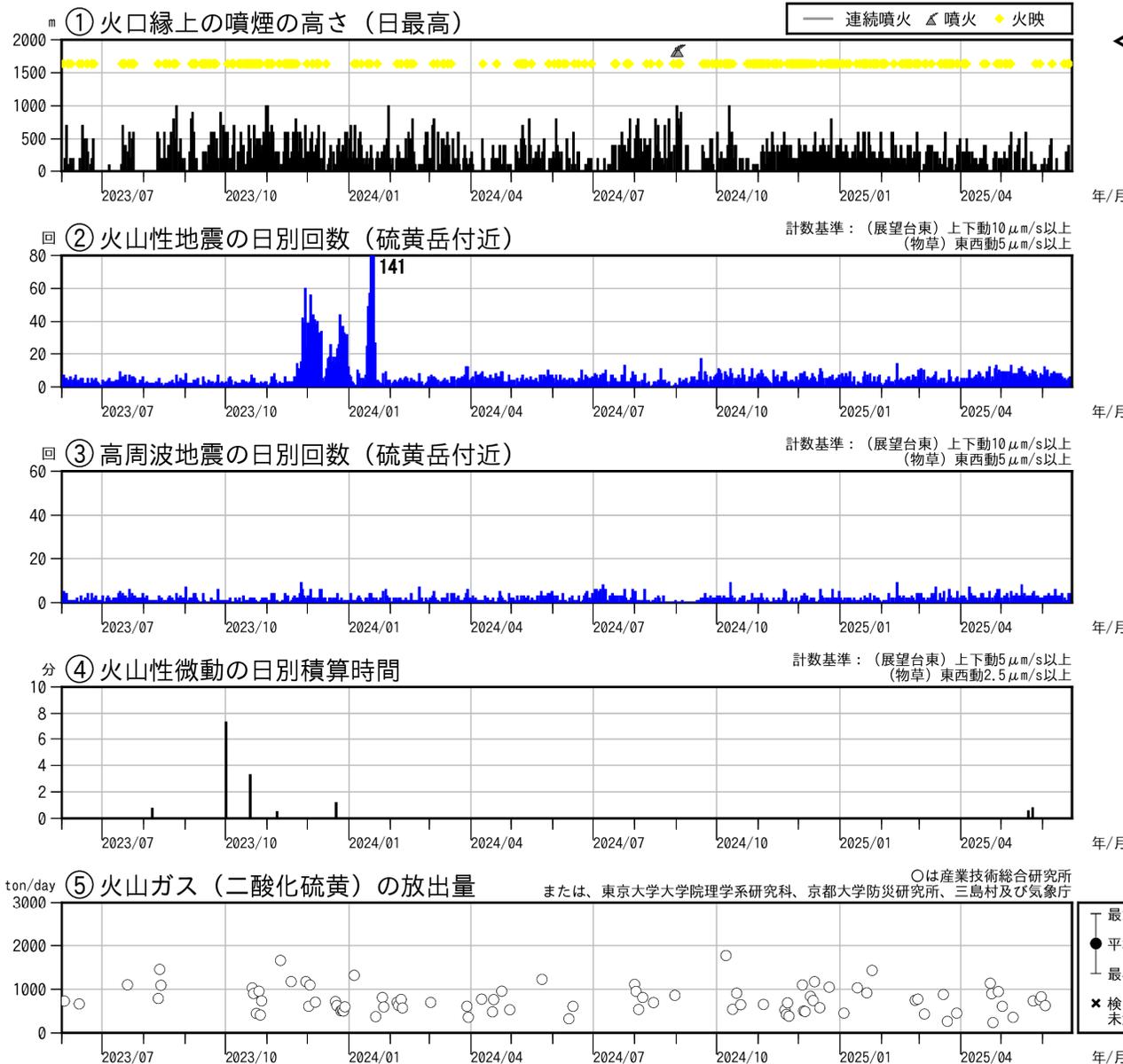


昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2km

- ・風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
- ・爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。
- ・降灰状況により、降雨時に土石流が発生する可能性があるので留意してください。

# 薩摩硫黄島 活動状況

## 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)



＜ 2025年5月から6月22日までの状況＞  
(6月の回数等は速報値)

### 噴煙等の状況

- ・硫黄岳火口で、白色の噴煙が最高で火口縁上600mまで上昇。
- ・硫黄岳火口で、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

### 火山性地震等の状況

- ・火山性地震は少ない状態で経過(5月: 240回、6月: 144回)。このうち、高周波地震の月回数は5月83回、6月60回。
- ・5月21日及び24日に振幅の小さな火山性微動が発生。

### 火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- ・1日あたり400～800トンで経過。
- ・長期的には1日あたり1,000トン前後の状況が継続。

薩摩硫黄島 火山活動経過図(2023年6月～2025年6月22日)

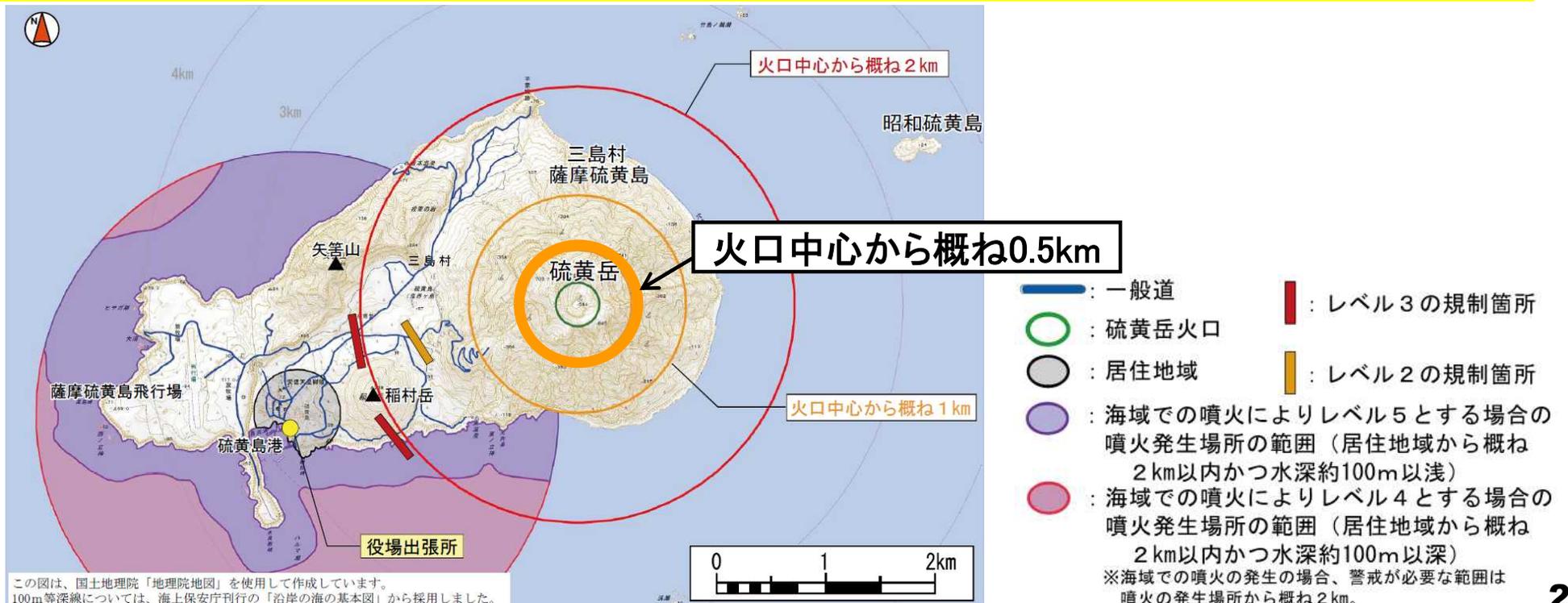
# 薩摩硫黄島 防災上の警戒事項等

## 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

### 警戒事項

硫黄岳火口中心から概ね0.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。



# 口永良部島 活動状況

噴火警戒レベル3(入山規制)

＜2025年5月から6月22日までの状況＞

(6月の回数等は速報値)

## 噴煙の状況

- 新岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上600mまで上昇。
- 古岳火口では、監視カメラで火口縁を越える噴煙は観測されなかった。
- 5月13日から15日の山麓からの現地調査において、新岳火口及び古岳火口からの噴煙は認められなかった。

## 火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- 1日あたり20～80トンと少ない状態。2024年8月以降は概ね少ない状態。

## 火山性地震の状況

- 4月上旬から山体の浅いところで地震活動が活発化。古岳火口付近を震源とする火山性地震が多い状態。新岳火口付近においても地震活動が継続。
- 古岳火口付近では、5月に振幅のやや大きな火山性地震が時折発生。
- 新岳西側山麓付近の地震は、観測なし。

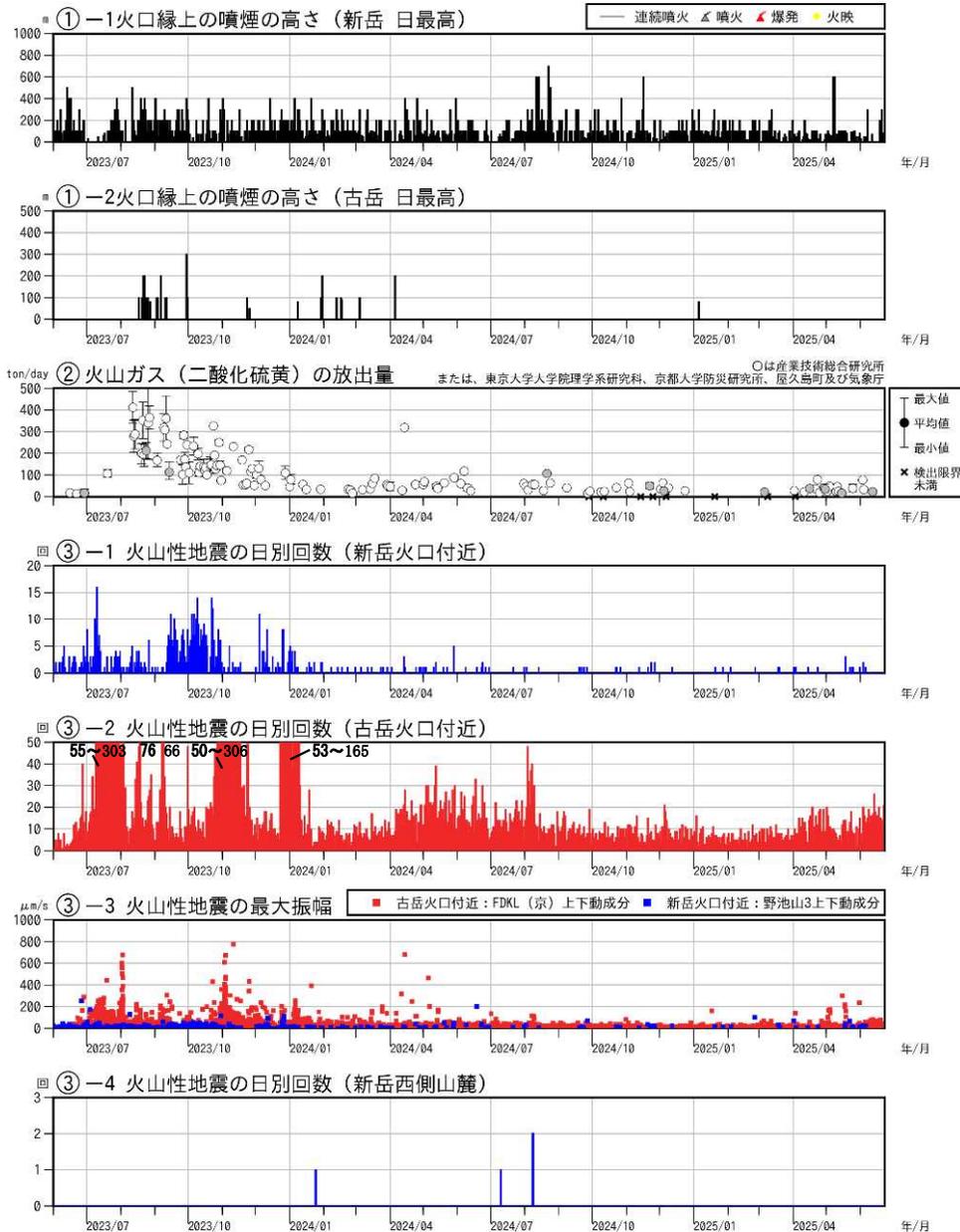


表 地震回数(単位:回)

|        | 3月  | 4月  | 5月  | 6月<br>(~22日) |
|--------|-----|-----|-----|--------------|
| 古岳火口付近 | 210 | 311 | 279 | 325          |
| 新岳火口付近 | 2   | 4   | 7   | 3            |

## 口永良部島 火山活動経過図(2023年6月~2025年6月22日)

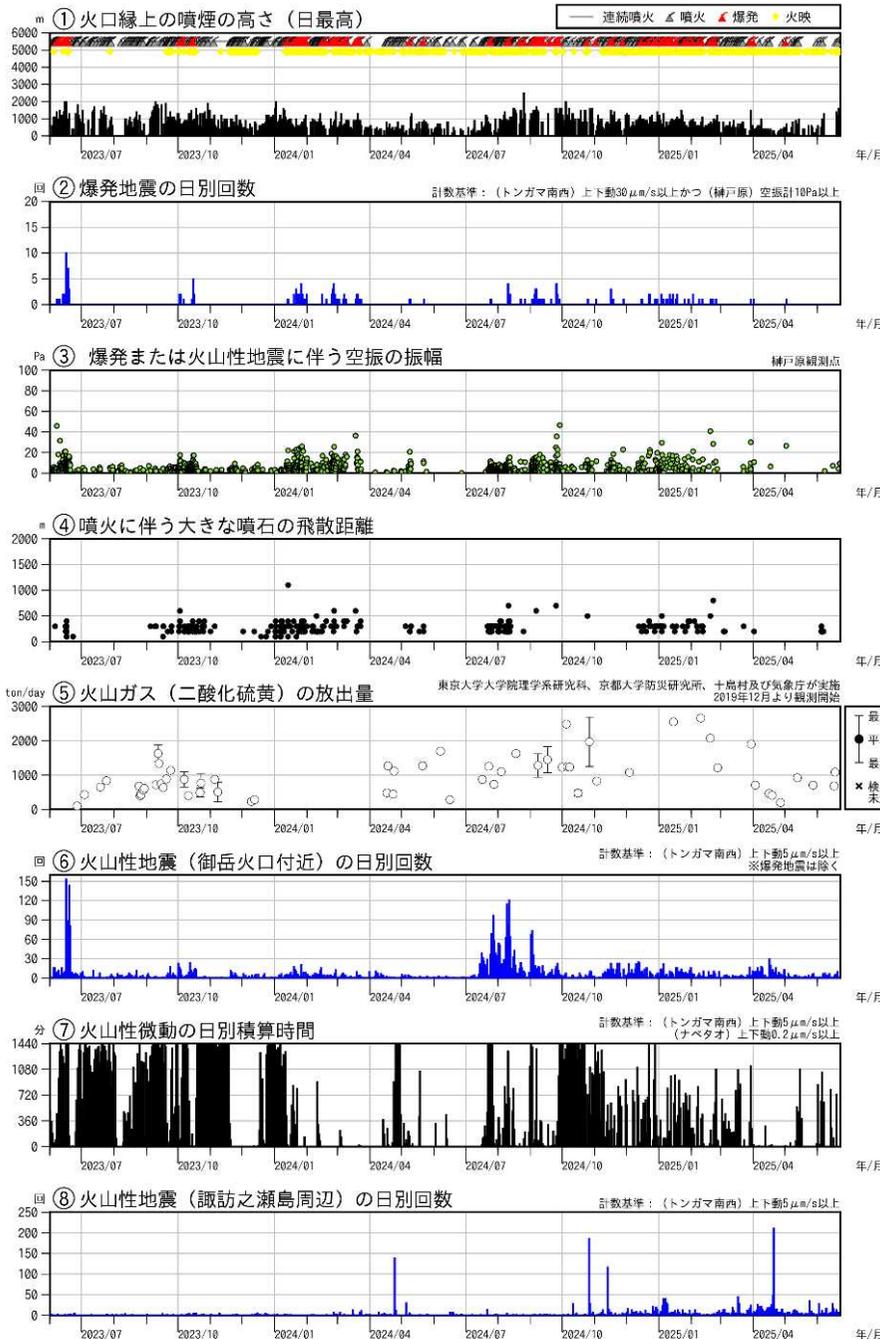
②火山ガス(二酸化硫黄)の放出量については、東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁が観測を実施。

# 諏訪之瀬島 活動状況

## 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

＜2025年5月から6月22日までの状況＞

(6月の回数等は速報値)



### 噴煙等の状況

- 噴火に伴う噴煙は、最高で火口縁上2.300m(6/23)まで上昇。
- 爆発回数は1回(5月:1回、6月:0回)(6/23に1回)。
- 弾道を描いて飛散する大きな噴石は、火口中心から最大で約300mまで飛散。
- 御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

### 火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- 1日あたり 700~1,100トン。

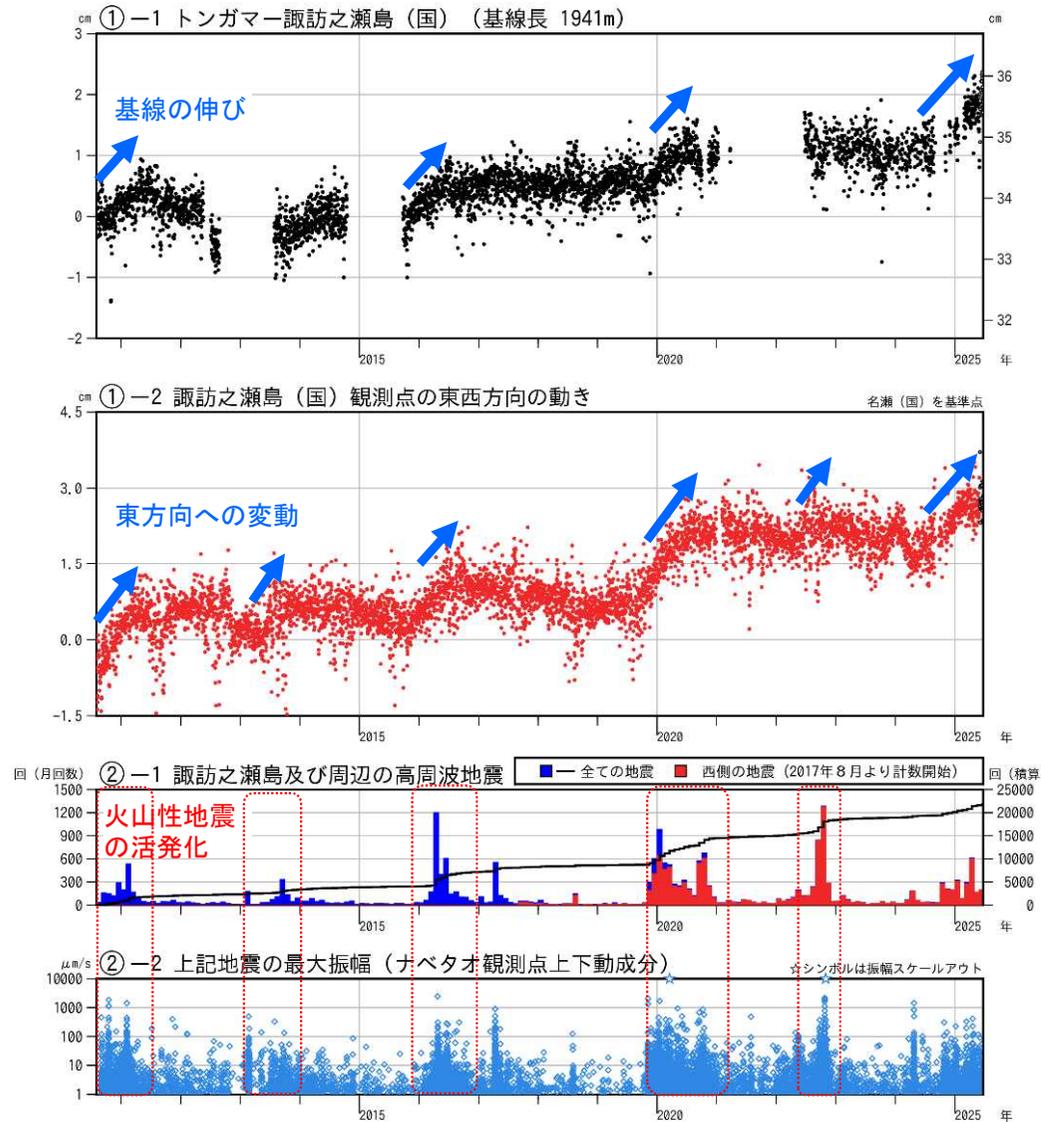
### 火山性地震等の状況

- 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態(5月166回、6月191回)。中長期的には、2024年10月頃から増加傾向がみられている。
- 御岳火口付近の火山性地震(爆発地震を除く)は少ない状態(5月72回、6月72回)。
- 火山性微動は主に噴火に伴い発生。

### ←諏訪之瀬島 火山活動経過図

(2023年6月~2025年6月22日)

# 諏訪之瀬島 活動状況

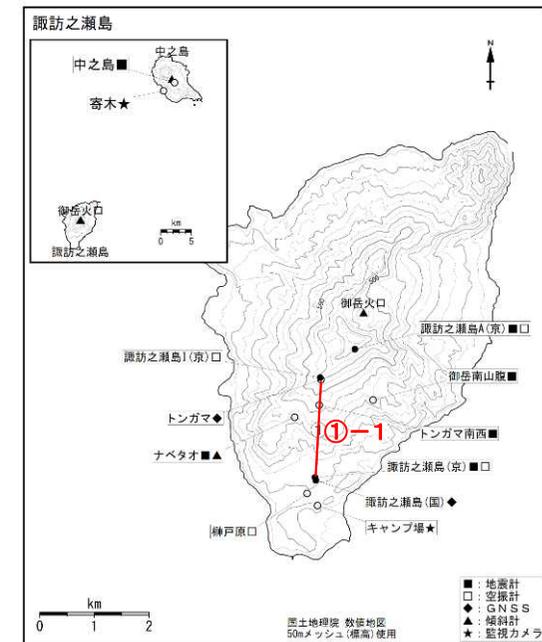


## 地殻変動の状況

•GNSS連続観測では、2024年10月以降、島の西側やや深部におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動が認められている。

## 火山性地震の状況

•島の西側で発生していると推定される火山性地震は、中長期的には、2024年10月頃から増加傾向がみられている。



## GNSS連続観測と周辺の火山性地震(2010年8月～2025年6月22日)

- ①-1の基線は右図①に対応。空白部分は欠測を示す。2024年9月1日の観測点修繕工事(ナベタオ観測点)に伴うステップを補正している。
- ①-2は島外の観測点(名瀬(国))を固定した観測点の東西の変動を示す。  
(国):国土地理院

## 観測点配置図とGNSS連続観測の基線番号

GNSS基線長図(左図①-1)の基線を赤線で示す。

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。  
(国):国土地理院、(京):京都大学

# 諏訪之瀬島 防災上の警戒事項等

## 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

### 警戒事項

御岳火口中心から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。



この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

- : 一般道
- : 登山道
- : 御岳火口
- : 居住地域
- : レベル3の規制箇所
- : レベル2の規制箇所

# 用語集

- **噴石**：気象庁では、噴火によって火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでいる。火山に関する情報では、防災上の観点から、「大きな噴石」および「小さな噴石」に区分して使用する。
  - ・大きな噴石：概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散する噴石のこと。
  - ・小さな噴石：直径数cm程度の、風の影響を受けて遠方まで流されて降る噴石のこと。
- **火砕流**：噴火により放出された破片状の固体物質と火山ガス等が混合状態で、地表に沿って流れる現象のこと。火砕流の速度は時速百km以上、温度は数百℃に達することもあり、破壊力が大きく、重要な災害要因となりえる。
- **空振**：噴火などによって周囲の空気が振動して衝撃波となって大気中に伝播する現象のこと。空振が通過する際に建物の窓や壁を揺らし、時には窓ガラスが破損することもある。火口から離れるに従って減速し音波となるが、瞬間的な低周波音であるため人間の耳で直接聞くことは難しい。
- **火山性地震**：火山体またはその周辺で発生する地震のこと。マグマの動きや熱水の活動等に関連して発生するものや、噴火に伴うものもある。火山によっては火山活動が活発化すると多く発生する傾向がある。
- **火山性微動**：火山体またはその周辺で発生する火山性地震よりも継続時間の長いもの。地下のマグマや火山ガス、熱水などの流体の移動や振動が原因と考えられるものや、微小な地震が続けて発生したことによると考えられるものがある。火山活動が活発化した時や火山が噴火した際に多く観測される。
- **火映**：高温の溶岩や火山ガス等が火口内や火道上部にある場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象のこと。一般には夜間に観察される。
- **赤熱**：高温の溶岩や噴気孔が赤く見える状態、あるいは現象のこと。
- **GNSS連続観測**：GNSS(全球測位衛星システム: Global Navigation Satellite Systems)の受信機を用いて連続的に地表の動き(地殻変動)を測定する観測。火山内部のマグマの動きを推定するために利用される。
- **爆発**：噴火の一形式。桜島や霧島山など、「爆発」の用語が地元で定着している場合には、爆発地震の有無、空振の大きさ、大きな噴石の飛散距離などの条件を満たす噴火について、「爆発」を使用することがある。

✓ 気象庁が噴火警報等で用いる用語集はこちらからでも確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

# 噴火警戒レベルの判定基準リンク集

(主に警報発表火山のみ)

## ■ 霧島山(新燃岳)

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level\\_kijunn/551\\_level\\_kijunn.pdf](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/551_level_kijunn.pdf)

## ■ 桜島

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level\\_kijunn/506\\_level\\_kijunn.pdf](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/506_level_kijunn.pdf)

## ■ 薩摩硫黄島

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level\\_kijunn/508\\_level\\_kijunn.pdf](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/508_level_kijunn.pdf)

## ■ 口永良部島

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level\\_kijunn/509\\_level\\_kijunn.pdf](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/509_level_kijunn.pdf)

## ■ 諏訪之瀬島

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level\\_kijunn/511\\_level\\_kijunn.pdf](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/511_level_kijunn.pdf)

✓ こちらで全国の噴火警戒レベルの判定基準とその解説が確認できます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level\\_kijunn/keikailevelkijunn.html](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html)